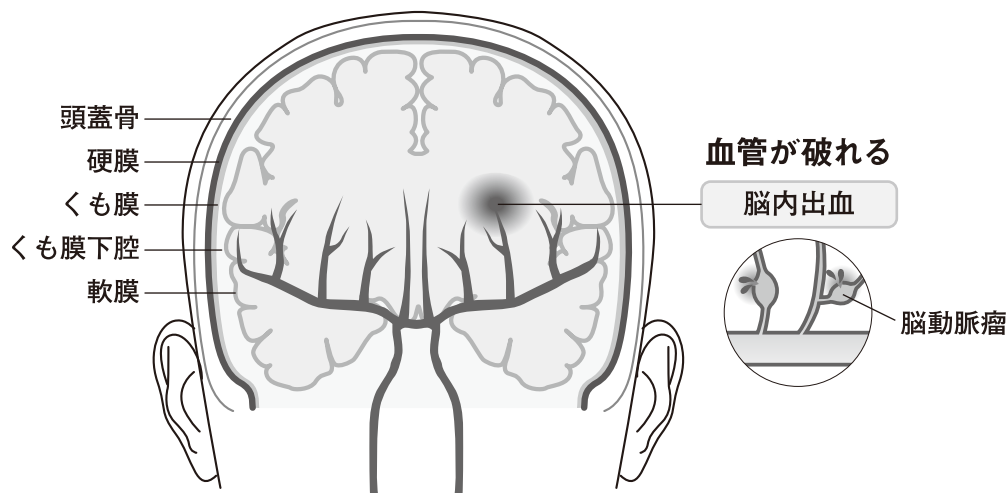


3] 脳内出血の症状

出血の起こった場所と出血量にもよるが、多くは前触れもなく、突然の頭痛、嘔吐、めまいなどを認める。意識障害、けいれん、右または左の半身が動かない片側まひ、ろれつが回らないなどの言語障害が起こることもある。出血した血液が多いと周囲の脳を広範囲に圧迫して症状が強くなることもある。

—脳内出血—



2 くも膜下出血

1] くも膜下出血とは

脳を覆っている髄膜には、上から順に硬膜、くも膜、軟膜という3層の膜があり、脳を循環する動脈は主にくも膜の下を走っている。くも膜と軟膜の間はくも膜下腔と呼ばれ、ここは髄液に満たされている。血管が切れてくも膜下腔に出血したものをくも膜下出血という。

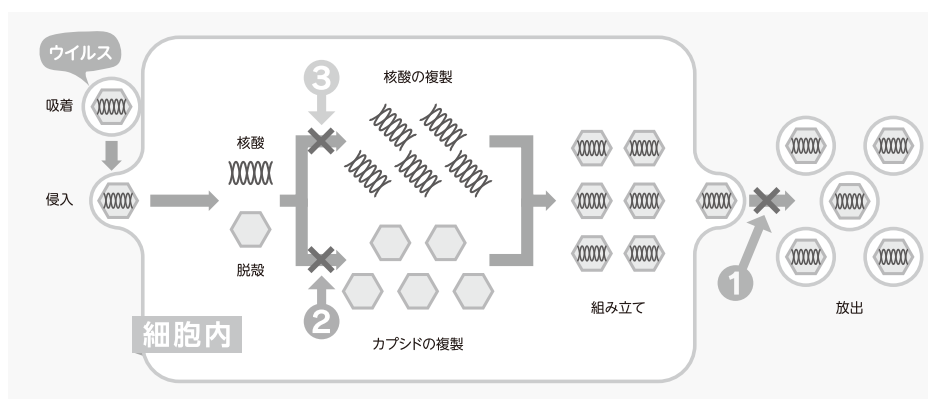
2] くも膜下出血の原因

くも膜下出血の原因のほとんどは、脳動脈の一部がこぶのように膨らむ脳動脈瘤の破裂である。脳動脈瘤の原因は明確ではなく、遺伝的な要因のほか、喫煙、高血圧、過度の飲酒などが危険因子である。

3] くも膜下出血の症状

これまでに経験したことがないような突然の激しい頭痛（雷鳴頭痛）が特徴であり、金属バットで殴られたようだと例えられる。噴水状といわれる嘔吐や吐き気を認め、出血が多いと、急速に意識がなくなるが、出血が少ないと軽い頭痛で治まり、数日後に再出血して診断されることもある。

— 抗インフルエンザ薬の作用 —



※インフルエンザは、体内での増殖スピードが速く、1つのウイルスから24時間後には約100万個にまで増殖する。そのため、抗インフルエンザウイルス薬の服用は、発症から48時間以内に開始することが重要であり、その期間を過ぎると十分な効果が期待できない。

6] 感染症の予防

感染症予防の基本は、手洗いうがいを徹底し、病原体を排除することである。ほかに、飛沫感染・空気感染を避けるためマスクの着用、定期的な部屋の換気、加湿などを行うようにするとよい。

また、十分な睡眠、栄養バランスのよい食事、適度な運動など規則正しい生活を送り、病原体に負けない体づくりを心掛けるようにすることが大切である。

●消毒方法について

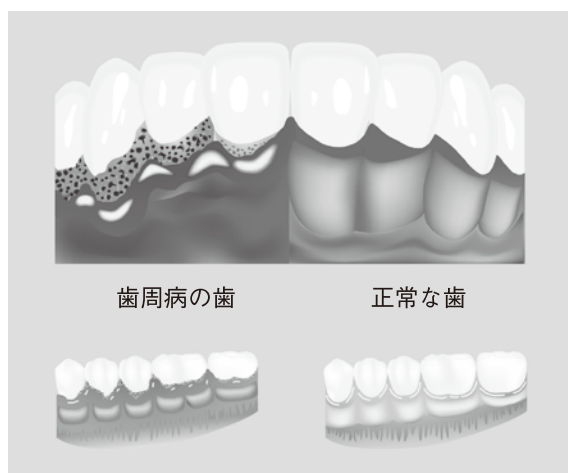
エタノールなどのアルコールは、「エンベロープ」と呼ばれる脂質でできた膜を壊す作用を持つため、エンベロープを持つウイルスを殺菌することが可能である。また、石鹼による手洗いも、汚れを洗い流すだけでなく、エンベロープを壊す作用がある。しかし、エンベロープを持たない「ノンエンベロープウイルス」と呼ばれるウイルスにおいては、アルコールで殺菌をすることができないため、「次亜塩素酸ナトリウム」などの塩素系の消毒剤を使用するとよい。塩素系の消毒剤は細菌に対しても効果的であり、細胞膜を溶かして細胞内のタンパク質を変性させ、機能を失わせたり、増殖を抑えたりすることができる。

歯周病の特徴は、虫歯と違って症状が出にくいことである。知らないうちに進行し、症状が進むまでなかなか自覚しにくい病気であり、最後には義歯になってしまう人がほとんどである。かなり進行してから出る症状として、歯ぐきから膿が出たり、激しく痛んだり、歯がグラグラになったりするが、このステージよりも早い段階で治療することが望ましい。

ポケットが6～7mmまで深くなった状態で歯科を受診しても、元通りに完治するのは難しく、歯肉が痩せてしまったり、後遺症が残ったりする。ポケットが3～5mmのころまでが、完治が望める治療のターゲットである。

歯周病は、膿が出たり痛みが出るときはすでに重症である。そうなる前のほとんど自覚症状のないうちに治療をはじめるべきである。

－正常な歯と歯周病の歯 ②－



2 歯周病と全身との関係

近年、歯周病の原因菌が気道や血液を介して肺や全身へ廻り、心臓病や動脈硬化、誤嚥性肺炎などの発症や糖尿病のコントロールへの悪影響、そして、早産や低体重児出産などの一因となっていることが分かってきた。

歯周病は単に口の中だけの病気ではなく、全身の健康と大いにかかわる病気でもある。歯周病を予防するためには、約3カ月に1回は、歯科クリニックなどで古くなった歯垢（口腔バイオフィルム）を除去することで、口腔内の細菌をリセットしてもらうことが非常に効果的である。早期発見・早期治療が、全身の健康管理のためにも重要である。